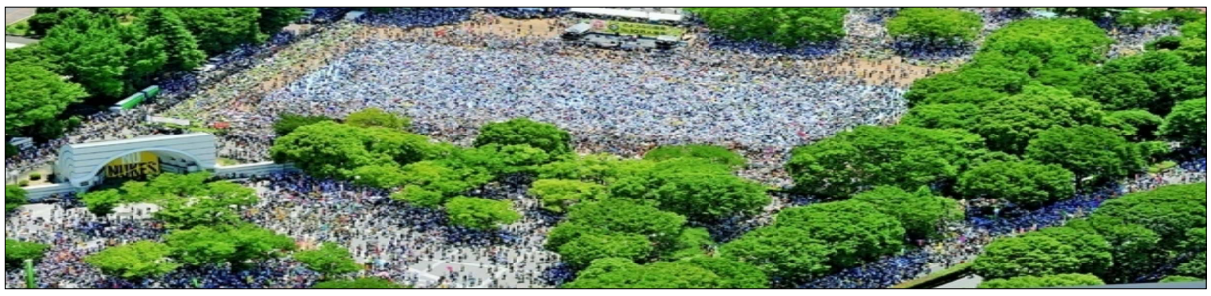
女川民報

日本共産党女川町委員会の見解と政策を紹介します。

2012年
7月号

日本共産党
女川町委員会

高野　博
53 - 3614
阿部律子
54-2562
ご意見・ご要望などをお寄せください



「原発ゼロの日本を」「子どもたちを守れ」会場は参加者でうめつくされました。　7月16日

1万人「原発なくせ」と

９０歳の瀬戸内寂聴さんをはじめ党派を超えて集結。若者の姿がいっぱいで歴史を切り開く集会になりました。

石巻、女川から三浦一敏県議、阿部律子町議、髙野和子さんが参加しました。７月16 日

県知事へ4万人の署名
町民2100人分も
「女川原発再稼働反対」と

６月１５日、復興支援みやぎ県民センターは県知事に「女川原発再稼働反対、自然エネルギーへ転換を」４万人分の署名を提出しました。髙野博町議は「この中に女川町の町民２１００人分の署名もある。立地町民の願いを重く受け止めてほしい」と訴えました。女川町長や東北電力にも同様の趣旨を申し入れました。

消費税増税法案を廃案に

消費税に頼らない道がある

髙野　博
阿部律子　町議
　　町議

消費税増税は国民の暮らしを破壊し、日本の経済もこわします。最悪のやり方です。これから家を建てたり、被災者が立ち上がる時に消費税増税とは絶対に認められません。「救済策」というがまったく具体的な話はありません。

日本共産党は、消費税に頼らない道があると提言しています。財界や富裕層向けの減税をやめ、軍事費の見直しや政党助成金などを削ること、雇用の拡大、内需拡大で景気の回復をはかり、国の収入を増やしながら、福祉、医療、年金の充実をめざします。ご一緒に頑張りましょう

議会と住民の懇談会が開かれました。

５月には震災後第３回目の議会と住民の懇談会が開催されました。２４会場で４７５人の参加でした。

特に今回はどこの会場でも福島原発事故による放射能汚染が心配と「子どもに食べさせて良いか不安。食物の検査ができるようにしてほしい」「プルサーマルの時のような決め方はするな」「風評被害に苦しんでいる」「一キロ四方ごとに空間線量を計れ」「雨の時、子どもが心配」などと意見が寄せられました。

ちづ子通信より

「原発いらない」と１７万人が集まる

東京代々木公園で行われたさようなら原発１０万人集会。沿道や車ですれ違う多くの外人さんがピースサインを出したり、タクシーの運転手がハンドルを離して写真をとっていくなど、街全体の反応もすごい。福島の青年たちはミニ太鼓を鳴らしながら、「ＷＥ　ＡＲＥ　ＦＵＫＵＳＨＩＭＡ！」「原発いらない！」と元気よく行進。私も青年の中に交じって弾むように（！？）歩き続けました。

デモ解散地点で、１７万人という人波を空撮した赤旗号外を手にして感激！東北の皆さんがゴールするのを迎えましたが、その列の長かったこと！炎天下、パレードの最後尾は午後５時ごろまでスタートできないなど、大変だったと思います。でも、テレビ局各社も無視できなかった大集会の成功は、どの人も確信したことでしょう。また、大集会や官邸前デモに呼応して各地でも反原発の集会が多様に開かれるなど、誰でも参加できるチャンスが広がっています。そして、野田総理を追いつめているのです。

6月定例会

6月定例議会は6月18日から20日まで3日間開催されました

阿部律子町議の一般質問

町当局答弁

一〇月には放射能測定できるようにします

阿部律子町議は「議会、住民懇談会において、福島原発事故からの放射能汚染に対する不安が出されています。町民の安心・安全のためにもしっかりし施策を求めました。

①子どもの放射線被ばくを心配する声にこたえるためにも定期的な健康診断の実施を

②風評被害への対策のためにも町民自ら持ち込んだ食品の放射能を計れる測定器の導入を」

と伺いました。

町長答弁

①国の基準年間１ミリシーベルト以下なので健康診断は考えていません。

②８月に県より放射能測定器が一台くるので、１０月より町民が利用できるようになります。

空間線量計を用意しました。放射線量の測定を希望される方は、気軽に私どもにご連絡ください。

戸建ての公営住宅を

阿部律子町議は「高齢者対策としての住宅のあり方は大丈夫か。また、町中心部にも戸建ての公営住宅の建設を。土地がないと決め付ける前に、市街化調整区域（大沢、針浜）の解除も含めて、町全体の土地利用を考えるべき」とただしました。

町長は「UR都市機構に委託するが、高齢者に配慮した住宅にしていく。市街化調整区域の解除は困難」と答えました。

女川原発再稼働反対の署名 町民の過半数をめざします

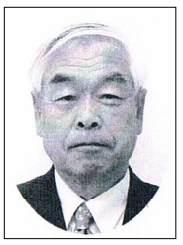
「福島原発事故の原因究明はこれからです」「他人事ではない」「事故が起きれば何もかも失う」「もう原発は動かさないで」という町民の願いは切実で、真剣です。この間、面談できた人の８割が「女川原発再稼働反対」の署名に応じ、２１００筆に及んでいます。

町民の過半数以上の署名を集め、町議会や町長、村井知事に、町民の意思をしっかり届けたいと思います。

ご協力をお願いします。

原発からの撤退、自然エネルギーへの転換で、安心・安全で漁業・水産業、自然豊かな女川町の再生を築きましょう。

高野博町議の一般質問



高台だけでなく現地再建を 二重ローン対策を親切に

高野博町議は

①高台移転だけでなく、一定の嵩上げで現地再建を出来るよう、清水の地域を具体的に示し、検討を求めました。

②個別面談の時、二重ローンの解決に弁護士に繋げるよう、親切な対応を求めました。

③江島の水問題の解決に井戸の活用、江島や出島に風力発電や太陽光発電、蓄電池の導入などを提言しました。

当局は、②二重ローン対策に取組む、③災害時のエネルギー確保として検討できると答えました。

福島原発事故の教訓は安全神話の一掃を

民間、国会、政府の事故調査報告書が提出されました。いずれも「事故の原因究明はこれからの調査にゆだねられる」と調査の継続を求めています。

「過酷事故は起こらない」という「安全神話」が事業者と規制機関に蔓延し、事故防止の対策や避難訓練などが取られなかったことが指摘されました。教訓にすべきです。

ひろば　写真日記

7月3日 日中友好協会

7月14日 会津医療生協

7月16日 科学者会議

7月22日 泉西部の会

5月・ミシン

6月21日 東北電力

6月23日 錦保育園

7月1日 県母親大会